

市制施行45周年記念第24回佐藤康光杯争奪将棋大会

アマ棋士119人 熱戦



多面指して指導対局を行う佐藤九段

6月12日、八幡市出身のプロ棋士である佐藤康光九段を迎え「八幡市市制施行45周年記念第24回佐藤康光杯争奪将棋大会」が文化センター小ホールで行われ、4歳から87歳のアマチュア棋士119人が参加しました。

同大会は、佐藤九段が平成10年に第56期名人位を獲得したことを記念し、翌11年より開催。新型コロナの影響で3年ぶりとなった今回は、参加者を府内在住、在勤などに限定し、階級で対局時間を分けるなど、感染対策を講じて実施しました。



真剣な表情で盤面を見つめる参加者

佐藤九段から対局開始を告げられると、会場は緊張した空気に包まれ、参加者は真剣な表情で盤面を見つめながら次の一手を考え、熱戦を繰り広げました。

佐藤九段は各階級の様子を見て回った後、一度に4人の参加者と対局する多面指しを実施。終局後は、勝敗を分けた一手や勝利するための考え方を一人ずつ丁寧に指導していました。

佐藤九段と対局した今寺志陽くん(6)は、「歩を使う攻め方を教えてもらった。来年もまた来たい」と話していました。

田植え体験 大はしゃぎ

有都こども園

6月16日、有都こども園の4、5歳児45人が、内里菅井の田んぼで田植えを体験しました。

この体験は、園児に稲の苗植えから収穫までを行ってもらうことで、食べ物大切さを学んでもらおうと、地域の農家の協力を得て毎年実施されています。

園児たちは、先生に手をつないでもらい、順番に田んぼの中に入っていくと、冷たくてぬるぬるした土の感触に大

はしゃぎ。みんなで横一列に並び、苗を2、3本ずつ手に取ると、ロープの目印に沿って少しずつ下がりながら丁寧に植えていました。

田植えを終えた園児は、みんなで植えた苗がきれいに並んでいる様子を見て破顔一笑。今後は、手作りのかかしを立てて稲の生長を見守り、秋には稲刈りをして、自分たちで育てたお米をいただく予定です。

仲野遥葉ちゃん(6)は、「田んぼの中はぬるぬるで気持ちよくて、楽しかった」と話していました。



先生に教わりながら丁寧に苗を植える園児

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

ヤングケアラー 周囲が気付いて

研修会 90人来場



講演する濱島さん

ヤングケアラーの定義

日本では正式な定義は定まっていない。
[1] ケアラー=保護者やケアラーがいない状態で、
「家族にケアを受けるべき人がいる場合に、本人が親や兄弟姉妹や祖父母、近親者や友人の介護、介護、医療的ケアサポートなどを担っている」(公益財団法人)

が主催。濱島さんが平成28年に日本で初めて当事者になり得る高校生を対象に行った調査では、約20人に1人がヤングケアラーであると判明。ケアの内容は家族の介護や家事、年下のきょうだいの世話など、日常の「手伝い」と見られがちで、本人も「ケア」の自覚がないことから、まず「周囲が気付くことが必要」と訴えました。

地域での支援としては「ほご良い距離感で声をかける」などをあげ、「当事者に寄り添ってくれる人が欲しい。先生でも地域の人でも、誰かやってほしい」と話し、ヤングケアラーとの関わり方を伝えていました。

今月のこの人

八幡グルメ SNSで発信



山内 萌さん

「もえぐるめん」のペンネームでグルメライターとして活動。八幡市観光協会主催プロジェクト「八幡市観光応援団」の団員。八幡東小学校、男山中学校、京都八幡高校出身。

「橋本にある豆腐料理屋さんの懐石料理、和菓子だと季節限定の抹茶生チョコ大福も好きだし……」。八幡の美味しいグルメを尋ねると、次々と出てくるお店や商品――。

山内さんがグルメライターの活動を始めたのは約3年前、「八幡にもいいお店がいっぱいあるのに、何とか広められないか？」と考え、グルメブログを開設。後に始めたInstagramは、

現在7000フォロワーを超えています。

この6月には小学校の同級生で、走井餅老舗の11代目・井口香苗さんと数量限定のコラボかき氷を企画。地元産イチゴのシロップをかけ、石清水八幡宮の使いのハトをモチーフにしたホワイトチョコを添えるなど、八幡への愛が詰まったかき氷に仕上がりました。

今後もお店とのコラボに意欲

を見せつつ、お店独自の発信にも期待する山内さん。「SNSで発信すれば、もっとたくさんの人に来てもらえる。その助けになればいいな」と、ますますの八幡グルメの発信を目指し、今日も美味しいお店を探し歩きます。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。